

2026 年春号 研究室だより

西洋史学

卒業生、修了生の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。2025 年度の西洋史学研究室の近況をご報告させていただきます。

まず教員スタッフに関しましては、昨年度と同様に足立孝先生（教授／ヨーロッパ中世史）、今井宏昌先生（准教授／ドイツ現代史）からなる二名の講座体制となっております。また非常勤講師として、学外より西南学院大学の朝立康太郎先生（アメリカ近代史）、福岡大学の渡邊裕一先生（ドイツ中近世史）、そして例年通り福岡大学の森丈夫先生（アメリカ植民地時代史）をお招きしました。加えて、前期には広島大学の河合信晴先生（ドイツ現代史）による集中講義が開講されました。

学部生に関しては、阿部翔、小黑有花、梶啓輔、黒瀬日菜子、桑原悠大朗、津布良桂児、西村桃、橋本茜音、林健太郎、山崎羽希の計 10 名が新たに研究室へ籍を置く運びとなりました。さらに、大学院修士課程には内部進学生の尾林克幸（フランス近代史）が進学し、研究に取り組んでいます。そして今夏には、小黑がドイツに、山崎と学部 3 年生の田川綾乃がイギリスに語学留学し、同じく 3 年生の佐藤夢乃が 9 月から 2 月までベルギーに留学しています。院生では、吉原昌希（英独現代史）が四月に九州西洋史学会、5 月にワークショップ西洋史・大阪にて、安達漱也（フランス近代史）が 10 月に広島史学研究会大会西洋史部会にて、それぞれ報告をおこないました。

また、本研究室の修了生である坂本隼人さんの修士論文の一部が『西洋史学論集』第 62 号に掲載されたほか、同じく修了生の平田哲也さんが代表を務める一般社団法人九州人文社会科学研究会が講演会を定期開催しています。こうした卒業生・修了生の皆様のご活躍を胸に刻みながら、現在研究室に所属している私たちも一層研究に励んでいく所存です。卒業生・修了生の皆様のご健勝、ならびに益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

（尾林克幸）

会員近著

野村啓介編『西洋へのまなざし／日本へのまなざし：日欧文化関係史への招待』ミネルヴァ書房 2025 年

リュッターマン・マルクス編、岡崎敦ほか『「かのように」の古文書世界：コミュニケーションの史的行動学』彩流社 2024 年